

メインテーマ「学校での天文教育を考える ～連携の時代を迎えて～」

松村雅文（香川大学）、大島 修（岡山県立水島工業高校）

Main Theme “Astronomy Education in Schools: the Age of Cooperation”

Masafumi Matsumura (Kagawa Uni.) & Osamu Ohshima (Mizushima Technical High School)

Abstract

The main theme of the conference was “Astronomy Education in Schools: the Age of Cooperation”. In this short article, we review sessions related to this theme.

1. はじめに

天文教育普及は、さまざまな場所で、さまざまな形で行われていますが、多くの子どもたちに系統的に教育が行われているという点において、小・中・高校における天文教育はきわめて重要です。しかし、学校教育を関係者のみで担うには限界があり、さまざまな課題もあります。

一方、学校と社会教育機関との連携を始め、大学を含む異校種間の連携、学校と地域団体との連携などが各地で進められています。各種の教育機関や天文同好会なども、相互の連携を考えて活動を進めるようになってきました。今、まさに「連携の時代」を迎えていると言えます。

また、メインテーマとして「学校教育」を取り上げた研究会は、2000年の第14回以降開かれておらず、本研究会への学校教育関係者の関心を再喚起するためにも、今回は「天文教育普及における連携」を含めて、「学校での天文教育」を考えてみました。学習指導要領が改訂され“ゆとり教育”から脱却した今、何が問題なのか、どのような相互支援・連携が可能なのか、今後どのような活動が必要とされるのかなど、社会教育機関の活動や一般天文普及での活動を含めて、議論を行いました。

2. メインテーマに関するセッションについて

研究会初日の基調講演では、根岸 潔氏に「学校での天文教育 –これまでの変遷と今後の方向性–」というタイトルで、これまでの天文教育についてのレビューを行っていただきました。

それに続くテーマセッションでは、8名の講演者が、それぞれの実践等を踏まえ、報告や提言をしました。

2日目のパネルディスカッションのタイトルは、「地学基礎で何を学ばせるか、『地学基礎』執筆者が徹底討論」でした。高校の「地学基礎」の教科書を執筆した5名の方々にパネラーとして登壇いただき、パネルディスカッションをしていただきました。高校で「地学基礎」と言う科目が設定され、地学履修者の数が従来よりも増えることが予想されます。その一方で、学習指導要領により、従来の地学Iで扱えた題材（HR図など）が扱えないといったことが報告されました。

最終日の「まとめの討論」のセッションでも、今回のメインテーマ等の議論を踏まえ、今後、どのような取り組みを当会でやっていくのか等について議論されました。「まとめの討論」については、この集録の別稿をご覧ください。

幸いに、これらの企画が関心を呼んだのか、地元の学校教育関係者をはじめ、地方大会としては過去最多の参加者を得て、実行委員一同とても嬉しく思っています。

終わりに、基調講演をしていただいた 根岸 潔 氏、パネルディスカッションにおいてパネラーとして登壇いただいた、縣 秀彦、家 正則、岡田昌訓、鈴木文二、直井雅文 の各氏に感謝いたします。